

小笠原航路の超高速船 テクノスーパーライナー起工式を挙行

三井造船株式会社（社長：元山登雄）は、小笠原航路の超高速船テクノスーパーライナーの起工式を玉野艦船工場にて本日、挙行しました。

本超高速船テクノスーパーライナー（T S L）は、平成元年より次世代を担う船舶として日本の造船技術の粋を結集し、開発され、その後、ミレニアムプロジェクトに選定されたT S L 実用第1 船として、本年1 月、所有会社である株式会社テクノ・シーウェイズと建造契約を結んだものです。

本船は、アルミ合金製の軽量双胴船体と、ガスタービン2 基+ウォータージェット推進器2 基の推進系と浮上機関の空気浮上により4 0 ノット（時速約7 0 k m）近い高速航行を可能とする、いわゆるT S L 船型であり、アルミ合金製としては、世界最大級の超高速船として建造・運航されることとなります。

本船の所有会社であるテクノ・シーウェイズは、日本政策投資銀行、主要造船・海運会社などの出資を得て、T S L の保有・管理を行うために昨年（2 0 0 2 年）6 月に設立されました。

また、運航を担う小笠原海運は、東京 小笠原航路での長年の安全運航の実績を有し、その信頼性は高く評価されています。

本日、起工式を行ったT S L は、今後玉野艦船工場にて建造を開始し、2 0 0 5 年（平成1 7 年）春竣工を目指しています。竣工の暁には、従来約2 6 時間（1 日強）を要している小笠原航路を1 6 ~ 1 7 時間程度に短縮し、年間就航便数も大幅に増加させることができ、小笠原島民の生活基盤の向上に寄与することはもとより、同島を訪れる観光客の利便性の向上も図れるものと期待しています。

また、本T S L を建造する玉野艦船向工場は、本年6 月、国土交通省から日本で初めてアルミ船製造事業場として認定され、本認定が本船の建造に大きく貢献されるものです。

（裏面に続く）

[小笠原航路 T S L の概要]

船名 : 未定
総トン数 : 約 14,500 トン
全長 x 全幅 x 高さ : 約 140 m x 29.8 m x 10.5 m
主機関 : 航空転用型ガスタービン 2 基
推進器 : ウォータージェットポンプ 2 基
浮上機関 : 高速ディーゼル機関 4 基
航海速力 : 38 ノット (時速約 70 km)
航続距離 : 約 2,200 km
最大旅客定員 : 742 名
最大貨物積載量 : 210 トン

船舶所有者 : テクノ・シーウェイズ

運 航 者 : 小笠原海運株式会社

[担当]

船舶・艦艇事業本部 スーパーライナー事業室 丹慶 電話 : 03 - 3544 - 3462

[お問い合わせ先]

広報室 塩澤 電話 : 03 - 3544 - 3147



小笠原T S L完成予想図